



Title	図書館の「新たな役割」と「観光創造」との関連性について
Author(s)	松本, 秀人; Matsumoto, Hideto
Description	第II部
Relation	観光と図書館の融合 = The fusion of tourism and libraries
Citation	CATS 叢書, 5, 151-154
Issue Date	2010-07-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43228
Rights	© 2010 松本秀人
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS05_012.pdf



図書館の「新たな役割」と「観光創造」との関連性について

観光と図書館の融合が進むと、図書館も新たな役割を担うようになることが考えられる。その「新たな役割」と北海道大学の教育理念をふまえた「観光創造」との関連性について考察を試みる。

なお、この稿は厳密な論考というより、エッセイとして読んでいただきたい。

1 北大観光創造の教育理念について

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院は、「国際広報メディア専攻」と「観光創造専攻」の2つの専攻を持つ。このうち筆者が学んだ観光創造専攻(以下「北大観光創造専攻」)の教育理念について、まず簡単に説明する。

北大観光創造専攻の教育理念は、観光創造を担う人材にとって3つの力が特に必要だとして、①文化をデザインする力、②地域をマネジメントする力、③世界とコミュニケーションする力、をあげている(同専攻パンフレットより)。

これらについて、もう少し詳しく説明すると、まず、「①文化をデザインする力」とは、「地域が有する文化資源を活性化させ、地域住民と観光者双方に満足感を提供できる能力」のことである。より具体的にいえば、例えば、地域の固有性を発見したり、文化資源や知的財産を活用したり、新しい文化を創造する能力である。

次に、「②地域をマネジメントする力」とは、「観光創造を基軸にして地域再生を推進する際に重要な役割を果たす専門能力を提供できる力」のことである。例えば、観光政策の立案を行ったり、民産官学の連携を促進したり、地域再生に貢献する能力である。

三つ目の「③世界とコミュニケーションする力」とは、「世界を舞台に活躍する際に必要な国際的コミュニケーション能力」のことである。これには、ホスピタリティの育成、異文化理解、国際協力の推進などが含まれる。なお、ここでは「世界」と表現されているが、これを必ずしも「海外」の同義としてのみとらえるのではなく、「地域とは異なる文化圏」と解釈することもできる。

これらは教育理念上では「力」(あるいは「能力」)と表現されているが、北大観光創造専攻における「基本的な問題意識」と考えてよい。すなわち「文化デザイン」「地域マネジメント」「異文化コミュニケーション」という大きな3つのテーマが、これからの観光を拓いていくために不可欠なものであるという認識である。

北大観光創造専攻においては、教育の場はもとより、フィールドワーク、研究テーマの選定、地域との連携など様々な場面で、常にこの問題意識を根底に置いて活動が行われている。

2 図書館の新たな役割と貢献について

さて、ここで筆者の研究に戻り、「観光と図書館の融合」という状況が進んだ場合に、図書館がどのような役割を担うことになるかについて考察を行う。

観光と図書館が融合していくことによって、地域にとって図書館は、従来のような「本を借りたり読んだりする場所」というだけではなく、様々な役割を持つことが期待されるが、そのうち特に重要な貢献を3点ほどあげてみよう。

①地域文化の保存や創造への貢献

観光と図書館の関係が意識されることによって、地域文化の保存や創造に対して、図書館の持つ役割が改めて重要視されるようになる。例えば、図書館の保存機能を観光者への展示と結びつけたり、地域資料の活用や地域テーマに沿った蔵書の充実などが進められる。さらに地域に関連したイベントやデジタルアーカイブズによる情報発信なども含めて、図書館運営全体のあり方が、地域文化のデザインという観点から再評価されるようになる。

②地域づくりへの貢献

地域づくり、特に観光まちづくりにおいて、図書館の持つ資料やノウハウを活用することが必要であると認識されるようになる。地域マネジメントを進めていく際に、(観光との融合を意識した)図書館が、地域文化の保存や創造、地域内情報の集約、地域外への情報発信、交流の場など様々な役割を担うことで、地域づくりに欠かせない機関となる。

③交流の場としての貢献

観光と図書館が融合していけば、図書館は地域内と地域外を結びつける交流の場になりうる。図書館は地域文化を資料やイベント、ネットなどを通して地域外に発信する一方で、地域外からの感想や意見を受信したり、地域住民と来訪者の出会いをもたらす。こうした異文化コミュニケーションは、観光振興への効果のみならず、地域の活性化に様々な点で貢献する可能性を持つ。

3 観光創造と図書館の新たな役割

第1節では北大観光創造専攻の教育理念を簡単に解説し、第2節では筆者の研究をふまえた図書館の新たな役割と貢献について述べた。これをふまえて、両者の関連について考察を行ってみよう。

まず、「図書館が地域文化の保存や創造に貢献する」という点は、「文化デザイン」というテーマにつながっているとみなすことができる。

こんにちの観光は、ゲストもホストも「地域」に対する意識が高まっており、どこでも見られるものや地域文化とかけ離れた観光専用施設や食事・土産などは敬遠される傾向にある。従って、地域文化の保存、継承、活用、創造に図書館が貢献するならば、それは地域の観光振興にも結びつくのである。

次に、「図書館が地域づくりに貢献する」という点は、「地域マネジメント」というテーマにつながっているとみなすことができる。

従来の観光開発では、地域外からの資本投入が地域住民の参加意識とは無関係に行われるパターンもよく見られたが、そうした開発では、経営が行き詰まって資本が引き上げられると、あとにはなにも残らない。持続可能な観光のためには、地域による自律的な姿勢が重要であり、地域マネジメントのあり方が事態を左右するといっても過言ではない時代になりつつある。従って、図書館が地域づくりのサポート役として貢献することができれば、それは観光に関する地域マネジメントにも結びつくのである。

三つ目の、「図書館が交流の場として貢献する」という点は、「異文化コミュニケーション」というテーマにつながっているとみなすことができる。

そもそもゲストとホストとの間に存在する「文化ギャップ」こそ、観光の最重要テーマのひとつであり、ある意味で観光とは異文化を体験する行為であるといえる。また、こんにちの観光では「交流」にも関心が高まり、訪問先の風景をただ表面的に眺めるだけではなく、現地の人々とのふれ合いが望まれるようになってきている。日本全体でみても、海外からの観光者の誘致やクールな日本文化の提供などにおいて、「交流」や「異文化コミュニケーション」は重要なキーワードである。従って、図書館が地域の文化を訪問者に提示し、交流の場となり、観光者と地域との媒介役として機能することができれば、観光における異文化コミュニケーションにも結びつくのである。

以上のように考えてみると、観光と図書館が融合することによってもたらされる図書館の新たな役割が、北大観光創造専攻の教育理念に重なる点があるとしても、それほど無理な見方ではない。そして、さらにこれを敷衍すれば、「観光創造」(＝これからの観光のあり方を考え、ゲストとホストが共に幸せを享受できる観光を創造していくこと)にとって、図書館が重要な役割を担う可能性を持っているということができないのではないだろうか。冒頭でも断っておいたように、本稿は「こんな見方もできる」というエッセイであるが、我田引水だと一蹴されるほど荒唐無稽な結論でもないと思うのである。

なお、本稿を別の角度から眺めてみると、「これまで観光と関連性があまりないと思われてきた施設や機関(例えば図書館)に着目し、観光との融合による将来像を想像してみると、その施設や機関が、観光において重要な役割を担いうる可能性が示唆される」という思考スキームの一例ととらえることができる。このように従来にない着眼点から発想することが、まさにこれからの観光を拓いていくうえで大切な姿勢なのである。